

製品写真



特長・ポイント

D・BOXは松岡元（名古屋工業大学名誉教授）が開発したソイルバッグ工法の理論・効果・実績に基づいて、メトリー技術研究所が開発した製品です。現在も、D・BOX工法の開発者である松岡元と野本太は、工法の発展のために新たな挑戦を続けています。

セメント他一切の固化材を使用しないため、環境に優しい。

完全に水を通すため、土中に敷設した際、地下環境に影響を与えない。

基本的に土粒子を包み込むだけなので、CO₂の排出量を軽減できる（当社比）。

地盤補強と振動低減を同時に実現するため、コストパフォーマンスに優れる。

形状を維持したままでの一本吊りによる移動と、正確な敷設が可能のため、作業の大幅な効率化が可能。

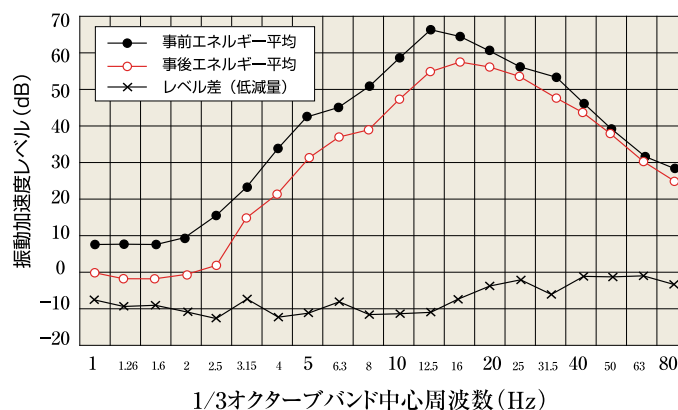
表層改良による施工のため、地盤補強を効率的に施工することができる。

敷設した周辺地盤の強度を上げることができる。

D・BOXの主な効果

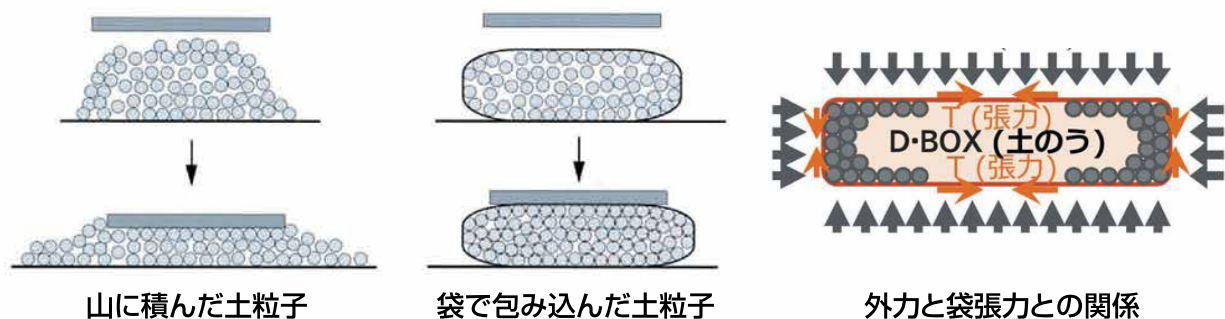
- 1) 地盤補強効果
(沼地などの超軟弱地盤の補強も可能)
- 2) 地震動の低減効果
- 3) 液状化防止効果
- 4) 凍上防止効果

人が振動を感じやすい周波数帯の4.0～8.0Hz、及び木造住宅の固有振動数といわれる2.0～10.0Hzで10dB前後の低減が図られている。



施工前後における
交通振動加速度レベルの周波数特性の比較

D・BOXの強度原理



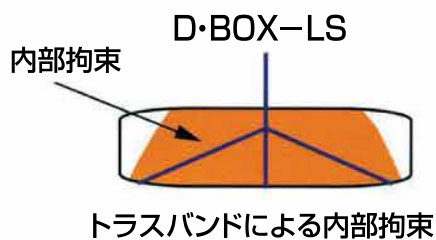
袋に土を入れ上から荷重を加えると、袋が扁平し伸ばされる為、袋全体に張力が発生します。その結果、土の粒子が内側に押し付けられ、土粒子間に摩擦が生じます。この張力を付加応力として発生した粒子間の摩擦力という「のり」が、D・BOXの基本的な強度の源なのです。

D・BOXの振動低減のメカニズム



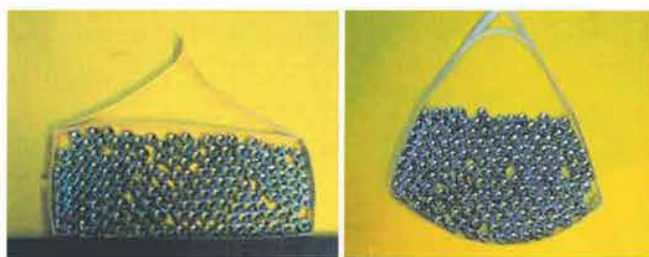
外部より振動が加わると、ごく微量ですがD・BOXに変形が生じます。この時、D・BOX内部の固化している粒子が動こうとするため、更なる摩擦力が発生します。つまり、D・BOXは振動エネルギーを摩擦エネルギーに変換する事により、外部よりの振動を弱めているのです。

D・BOXの内部拘束効果

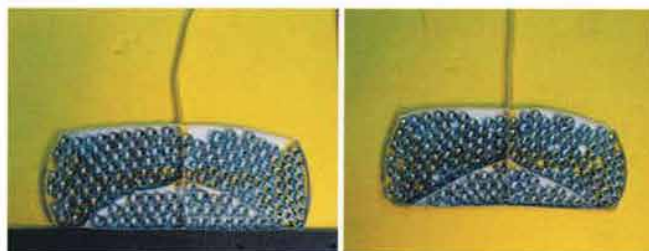


D・BOXには、拘束効果を高め、振動低減効果や点荷重などに対する強度増加を実現するための拘束具が内蔵されています。

D・BOX-LS：内部拘束有無の模型比較



内部拘束無しの状態



内部拘束有りの状態

D・BOX®-LS100/LS150

D・BOX-LSシリーズは、道路・造成工事・倉庫や仮設部などの大規模な工事に適した地盤補強と振動低減を効果的かつ効率的に実現できる製品です。



D・BOX-LSの形状 左は閉じた状態（中詰材未投入）、右が上部を開いた状態（LS100）

D・BOX-LSシリーズの主な特徴

- 1) LSは中央に突起したリフトバンドを持ち上げると、それに連動したトラスバンドが袋の張力に加え中詰材料に強力な圧縮力をかけて固化させます。これにより形状を維持したままでの吊り上げが可能となっています。
- 2) 形状を保持したまま一本吊りでの移動敷設が可能のため、施工効率の大幅なアップを実現しました。
- 3) 上面が完全に開くため、中詰材の投入が効率的に行える他、マジックテープを使った袋の開閉も簡単に行う事ができます。
- 4) 内部に設けられたトラスバンドの内部拘束効果により、中詰材を効率的に拘束固化できるため、より効果的な振動低減効果と強度増加を実現します。

*作業効率は落ちますが、重機の入らない小規模な現場で手作業での投入も可能。

D・BOX-LSシリーズ（吊り上げ設置タイプ）

*中詰材：C・RC40-O推奨

製 品	施工寸法 (単位:mm)	備 考
D・BOX-LS100	W1000×D1000×h250	中詰材の投入容量 0.25m ³
D・BOX-LS150	W1500×D1500×h450	中詰材の投入容量 1.0m ³

D・BOX-LSシリーズの施工手順と施工例



1) D・BOXを専用型枠にセットし
上部より中詰材料を投入



2) 対面する上部をマジック
テープで固定



3) 重機やクレーンで吊り上げ
敷設箇所に設置



4) 締固め機械で転圧



5) 設置検測



6) 戸建住宅の地盤補強及び
振動低減の施工例

擁壁

河川・環境

道路

水路

防火水槽

上下水道

張出

地中線

太陽光関連

防災・減災・復旧

工法・その他